

【<ビジネス情報> 戦略を語る 】

東北醤油株式会社

佐竹宏明(さたけ・ひろあき)専務 (38)

生きのびる道は商品開発

「食事の多様化などで、みそ、しょうゆの売上げは確実に落ち込んでいる。あと五年もすると、消える業者、生きのびる業者が、はっきりすると思う。それだけ、この業界は厳しい」と分析。

「消費者が何を求めているかを知り、それに応じる商品を開発する以外に生きる道はない。幸い、五年前に売り出した『味どうらく』がヒット、年商約四億六千万円と急上昇しているが、これだって、ほかから新商品が売り出されると、“過去の商品”になってしまう」と、新商品開発を強調。

「味の源平合戦」で、五月から売り出した、めんつゆも、そのあらわれで、「自分がほれるような品物を、お客さんがびっくりするほど安い値段で」とも。「みんなが楽しく、安心して働ける会社」を合言葉に、今年から年商八億円を目標にした第二次五か年計画をスタートさせた。

【略歴】 山形県出身。中央大学卒、会計事務所勤務を経て53年入社、59年6月専務。

読売新聞1985年(昭和60年)6月4日付け。

この記事等は読売新聞社の許諾を得て転載しています。

読売新聞社の著作物については <http://www.yomiuri.co.jp/policy/copyright/>へリンクしてください。読売新聞社の記事等を使用した部分について、無断で複製、送信、出版、頒布、翻訳、翻案等著作権を侵害する一切の行為を禁止しております。